生涯学習だより
「カンナ」
第１４号

秩父事件と町の関わりを学びました

二月六日（木）「神流町人権教育研修会」が指導者養成講座第十回目を中谷公民館で開催されました。

神流町は、明治初期の混乱期に秩父事件の舞台となった地域でした。

秩父事件は長らく「暴徒・暴動」のイメージが強く、詳しい歴史とか聞いたことがなかったという人が多かったのではないでしょうか。

そこで今回は、「暴徒・暴動」の側面だけを直視するのではなく、歴史的意義や、秩父事件の中心人物である田代栄助を中心とした人権問題にまで話題を広げて、お話しをしていただきました。

講師の先生は、西澤義明先生でした。

西澤先生は、長年、神流町の教育長を務められた方で、神流町の歴史に詳しい方でした。

先生は、今回の講演を通して、秩父事件と神流町の関わりを、お話しくださいました。

昔の遊びを教えていただきました

二月二十六日（水）万場小学校音楽室にて、一年生の生活科の授業が行われ、町の方に講師としてお世話になりました。内容は「昔の子どもの遊び」と題して、昔から遊んできたビー玉やおはじきなどの遊びの紹介と実技でした。

「こま」「けん玉」「ぽっくり」「竹かえし」などの遊びをご紹介いただきました。講師は、社会教育委員長の高橋隆さん、新井幾代さん（柏木在住）、新井明栄さん（生利在住）、齋藤博子さんの計五名の方にお世話になりました。

教育長、そして緑の協力隊の高塚さんの四名のみなさんが当日は一年生六名とその保護者の方六名の十二名のグループに分かれて、それぞれ昔の遊びを楽しみました。

「こまを家の人に作ってもらってはじきが楽しかった」「お手玉ができるようになった」「お手玉が難しかった」などの感想を発表しました。

「けん玉が難しかった」一年生が「一緒にお食べ給食を地域の講師の方に教えてもらいたい」などの声もあがりました。

一緒に遊びながら、昔の子どもの遊びを通して、地域の人と子どもたちとの交流ができたこの後の経験を今回の終了を機会に、家庭でも昔の遊びを楽しむ予定です。

絶妙な技に拍手喝采でした。最後の歌（新井姿）

付き代表しておおたかみ見らいてもせ

幾つかの子どもたちが、昔の遊びを楽しんでいました。

達にとってはふだんなじみ

達にとってはお家の方まとめ

一緒に遊びながら、昔の子どもの遊びを通して、地域の人と子どもたちとの交流ができたこの後の経験を今回の終了を機会に、家庭でも昔の遊びを楽しむ予定です。

図書館から

お薦めの新刊

直木賞受賞作。過酷な運命に翻弄された女性の一生を描く感動作。

今年度末に朝井まかて作

三月号コラム

先月の大雪は各地で甚大な被害を招き、現在も除雪など対応に追われています。また、屋根からの落雪やなだれなど未だに注意が必要な状態が続いています。災害の大きさには心を痛めるばかりですが、どの地域でも率先して道路等の雪かきを行い、中には若い方が中心となってお年寄りの家の周りや出入り口を雪かきしたという話があちこちで聞こえてきました。東北で起こった大震災以後、地域での助け合いの大切さが叫ばれてきましたが、今回の大雪ではまさに地域での「助け合いの精神・お互い様の心」が実感できたように感じます。人間関係の希薄化が問題になっている日本ですがまだまだ地域の「絆」は色濃く残っているなと思いました。

（近藤）